

作成日：平成 27 年 6 月 9 日

学校法人東京滋慶学園 ベルエポック美容専門学校 平成 27 年度 学校関係者評価委員会議事録

議事録製作者：東 健一

1. 開催日時：平成 27 年 6 月 9 日（火曜日）13:30 ～ 15:40

2. 開催場所：赤堀製菓専門学校 A 棟 2 階教室

3. 参加者：＜委員＞

峯 茂治様 : 保護者代表
市川 淳 : 高等学校関係者 第一学院高等学校 次長
小山 圭介 : 卒業生代表 L.O.G BY U-REALM スタイリスト
八木下 章二様 : 業界関係者 ヘアスタイリスト教会 理事
綿引 勉様 : 業界関係者 ワンダー 代表取締役社長

＜事務局＞

中村 道雄 : 学校法人東京滋慶学園 理事長
前川 昭男 : ベルエポック美容専門学校 学校長
岩村 勇 : ベルエポック美容専門学校 事務局長（委員長・進行係）
藤本 拓也 : ベルエポック美容専門学校 美容師科学科長（副委員長）
東 健一 : ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター長（書記）

4. 内 容（議 事）

＜学園全体会＞

■理事長挨拶：中村
委員会参加謝辞

■学校長挨拶：前川
委員会参加謝辞

■滋慶学園グループと東京滋慶学園紹介：小川

学園が大切にしている考え方として建学の理念がある。「実学教育」「人間教育」「国際教育」。その他に「4つの信頼」として、「学生・保護者」、「高等学校」、「産業界」、「地域」から信頼を得られる教育に取り組んでいる。これは、まさに我々にとって

の大きな評価軸のひとつと考えている。

学園は、5か年毎に長期的な計画を立てて、各校の事業計画に反映されている。

■職業実践専門課程と学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の概略説明：小川
文部科学省が定める一定規準を満たし、産業界（各業界）との教育連携を図り実践
教育に活かすこと、また地域の方々、保護者の方々、高等学校の方々など、広く関
係する皆様より、多角的にご評価、提言をいただき本学の教育活動・学校運営に反
映させてまいりたいとの目的でご参集いただいた。

本委員会並びに、教育課程編成委員会のご評価の内容は本学のホームページ上で情
報公開させていただいているところである。

<分科会>

■委員自己紹介

峯様、市川様、小山様、八木下様、綿引様

■学校評価審議

1. 教育理念・目的・育成人材像

岩村：教育に関しては毎年改定をしている。

授業アンケートも実施し、結果を分析すると共に講師にフィードバック
をして授業改定に勤めている。

市川：FDC（ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター）の任命
人材はどのような人か？

岩村：専任教員が兼任しており、国家試験対策で1名、授業支援サポートで1
名を配置している。

小山：私が在籍しているときにFDCは配置されていたか？

岩村：5年前からの設置なので、在籍当時はまだ配置していなかった。

八木下：育成目的と教育目標はどのようになっているか？

岩村：養成目的は卒後5年後に指名されるプロになる人材育成を掲げている。

教育目標はトップサロンが集まる原宿・青山・表参道で通用する人材育
成としている。

2. 学校運営

峯：子供が楽しく授業を受けているようなので大変良いと思っている。

小山：卒業生への支援体制はどのようになっているか。

岩村：同窓会を実施している。今後はさらにネットワークを広げたい。

藤本：養成目的に合わせた卒業生の輩出やサポートが大切である。

岩村：年々、原宿・青山近辺で就職した卒業生が活躍している。地域にある学校として業界からの協力も増えている。

3. 教育活動

岩村：評価項目が満点ではない理由として、コンテストなど外部評価を受ける機会が少なかったので、その点を補うべくコンテストに参加するようになったが、学年層の工夫が必要である。

綿引：外部コンテストは学校同士の競い合いのコンテストになりがち。限られた学生しか参加できない。せつかく原宿という恵まれた地域に学校があるのだから、学校独自でコンテストを組み立てた方が良いのではないかと学校から発信するようにしたらどうか？

八木下：学外のコンテストは個人の評価よりも学校の評価が重視される風潮があるので、学生の事を考えるとコンテストの参加だけが重要とは思わない。個人の表現がきちんと評価されるのであれば、コンテストの参加も大切だと考えている。

綿引：原宿にある学校として意味のある取り組みをしたほうがよいと思う。独自性を大切にしてほしい。

小山：自分が学校を選んだ理由は、「原宿」にあるからということで、コンテストにあこがれて入学したわけではない。コンテストだけに観点を置いてしまうことは学校の独自性が希薄になってしまうと思う。

また、在学中の教育で一番役立ったのは「シャンプー実習」就職して即戦力として実際に役に立った。

峯：学内コンテストでは、学生の目が輝いているのが印象的だった。また、実際に技術を見ることで今何を学んでいるかがわかる。

3. 「育成人材像」

岩村：平成 26 年度は国家試験合格 100%となった。

綿引：国家試験不合格者の生涯無償、合格保証は素晴らしいが、現場にとってはマイナスに働くことがある。自分自身に適切な投資ができない人物が救済措置で一人前になっても意味がないから。

市川：学習習慣がない者を合格させる方策はどのようなものになるか。

藤本：伸び悩んでいる学生を正確に抽出することが大切であり、抽出後は学習習慣を身に付けさせるようにする。

最後の最後は、その学生がわかるまで学校で問題を解かせ続ける。ただし、これは学生・教員の両者にとって非常にストレスになる。

綿引：免許取得は命題になると思うので、そこは厳しくてもよいと思う。

国家試験不合格で内定採用取り消しになる場合があるがそれは採用したサロンの責任で解雇をするのはやってはいけない事と思っている。国家試験で緊張して普段の力が出ない学生もいるのでそのことも汲んであげると良いと思う。

岩村：学校としては学生が試験の緊張感に場馴れをするように工夫をしている。

峯：成績表については毎回見ている。学校への意見は自分の子供ががんばっている姿を見ていると充実した学生生活を送っているのがわかる。

4. 学修成果

岩村：未内定者がメイク、ネイルコースにていたが5月に全員内定した。

就職に関しては、求人が多すぎて学生が就職先を選べない状況がある。これについては学生支援に関しての我々の課題と思っている。

小山：自分の時に比べると、美容室を知らない学生が多いように感じる。

特に原宿サロンは芸能人が通っているなど、表面的な情報に気を取られてしまう。業界人としての立場から見ると些細な部分しか見ていないと思う。

綿引：採用側が採用コンセプトを持っていないかもしれない。採用に関して問題があることについては採用側の考えが相手に伝わりにくくなっていてミスマッチが起こっている可能性がある。

八木下：昔はどの学校も教員が学生を選定して就職支援していたと思うが、就職を学生任せにしているがために就職でのミスマッチが起こっていると思う。この部分の支援をきちんと整理する必要がある。

市川：美容分野を目指している生徒は増えているように思う。高校でも進学先についてはもっと関与していくことが大切だと考えている。

峯：子供の就職に関して将来、自立した職業人になってくれると良いと思う。

家で一生懸命練習をしている努力の姿も見ているので特にいうことはない。

5. 学生支援

岩村：美容師科の退学率は4%。

近年、自己肯定感が低い学生が多く自分自身を好きになれない学生が増えている。学生に一步一步自身をつけてもらうためにポートフォリオ作りなどを行っている。

クラブ活動については、フットサル、ダンスサークルがある。どちらも活発に活動している。

6. 教育環境

岩村：設備に関してはコンプライアンスに沿ったものを用意しているので問題はない。

7. 学生の募集と受入れ

岩村：学生の募集に関しては適正に実施している。定員も充足している。

8. 財務

岩村：学校から切り離しており、学園関連企業にて管理している。

9. 法令順守

岩村：学校設置はもとより法令順守のもと運営している。また、今回の委員会についても指定規則に則って実施をしている。

東：本委員会については、今年度の指定条件の下運営をしている。

次年度以降は、学校関係者評価委員会を年間 2 回は実施することになると思われる。今年度についても、1 回開催の義務回数以外に年度末に評価をいただくことも検討している。この件は決定しだい報告させていただく。

10. 社会貢献・地域貢献

岩村：昨年の活動は一過的なものが多かったが、今年は継続的な取り組みを行うようにしている。

<総論>

小山：自分の時よりも学校が業界とともに様々なことをやっているのも、うらやましいなと思う。その恵まれた環境が学生に伝わっていないことがあると思う。その点が、もったいないと思う。

外部実習で学生を送り出す際は外部で勉強することがどういうことかを伝えてほしい。

自主的な行動がとれないと外部実習では評価してもらえない。

藤本：外部実習を行うまでに至らない学生も時にはいる。学生の意志がない場合は実習先にご迷惑をかけてしまうので行わない。

市川：社会に出ると父性（厳しい社会）に出会うので、その環境を学内に整えるべきと思う。カウンセリングタイプの教員だけでは学生のメンタルタフネスは育たない。

綿引：学生に厳しさを伝えることが大切だと思う。厳しいことが敬遠される教育はしてはならないと思う。マンツーマンの教育手法も取り入れるのも一定の教育効果があると思う。

八木下：学習成果、学生支援はとても良いと思うが、制度よくできているがために「教えすぎ」になっていないか。学生自身の判断を奪うことになっていないかが懸念される。

綿引：就職活動において不採用の場合、学生自ら聞けない場合、学校がその理由を聞くことが大切。それをきちんと採用側から教えてもらい、学生にフィードバックすることで正しい方向に修正ができると思う。業界も人材育成に携わることが大切である。